

壬生野地域まちづくり協議会
〒519-1424 伊賀市川東 4539 番地の 4
壬生野地区市民センター内
Tel:(45)8900 ・ Fax:(45)8901
E-mail tokimeki@ict.ne.jp
URL http://www.mibunet.net



壬生野まつり 大勢のご参加 ありがとうございます。



文化あふれるときめきの里
2009. 10.04(日)
壬生野小学校体育館にて

Information

庭木の整枝剪定講習会

生活環境専門委員会

平成 21 年 12 月 5 日 (土) PM1 : 00~

集合場所：壬生野地区市民センター

参加費：無料

持ち物：剪定バサミ等

いがまち造園組合のご協力を
いただいで実施します。

参加申し込みは、壬生野地区
市民センター(TEL45-8900)へ



寄せ植え教室 生徒さん募集します。

教育文化専門委員会

開催日時：平成 21 年 11 月 28 日 (土) PM1 : 30~

開催場所：壬生野地区市民センター

募集人員：20 名程度

参加費用：1,000 円 (材料費)

持参品：レジ袋 (寄せ植えを収納して持ち帰りするため)

手袋 (手を保護したり、汚れ防止のため)

その他：容器 (鉢) は簡易なものを準備しております。

参加ご希望の方は、お早うちに壬生野地区市民センター内
まちづくり協議会事務局 (TEL45-8900) へお電話下さい。
11 月 13 日 (金) を締切り日としますが、定員枠を超えた場合は、
それ以前にお断りさせていただく場合があります。



写真はイメージです。
今回の作品ではありません。

編集後記

里山の木々の紅葉は、日に日にその色を変化させています。
今年もあと 2 ヶ月を残す時期となりました。年の初めに誓った
志を成し遂げたかどうかを振り返ってみるのもいいですね。

◇◇◇◇ ご意見・お問い合わせ・投稿は、下記までお寄せ下さい。 ◇◇◇◇

壬生野地域まちづくり協議会広聴広報委員会 TEL: 45-8900

伊賀市議会報告会がおこなわれました。



10月6日(火)午後7時から壬生野地区市民センターにおいて地域住民約25名の参加のなか開催されました。出席された議員は、今井由輝、中谷一彦、森正敏、安本美栄子の市議会議員4名で、冒頭に今回、一市議会議員の私的に流用したとされる金銭問題で、伊賀市議会としてお詫び申し上げるとの一礼があり、この問題の今後の対応について説明がありました。

そして今井議員の進行役で、本年度第8回伊賀市議会定例会での提出議案及び議決結果について説明がありました。

そのあと市政全般における質疑応答があり、

地域住民から医療問題の現状についての質問があり、議員さんから「医師不足と救急利用の増加によって、必要な医療体制の確保がたいへん難しい深刻な問題の一つである。現在の3病院輪番体制について検討中である。」とのお話でした。また、行政組織及び機構の見直しに関わって、職員数の減員による対応策として、本庁の部組織が7部から4部へ、支所機能が4課から2課となるなど、身近な伊賀支所の縮小化についての動きや鳥獣害被害の現状と対策、今年度実施された地方選挙については一元化による経費削減が出来ないのかなどについての内容でした。

子どもを守るまちづくり ～子どもを生きさせる仕掛けを考える～

去る10月23日(金)第2回解放講座が開催されました。今回は、標記について、社会福祉法人「ノーマライゼーション協会」理事長の山中多美男さんのお話でした。講演の概要を紹介します。

保護者の失業により、国民健康保険をかけられない、学校の給食費、修学旅行費が払えない家庭が増えています。高校においては、授業料が払えず、中退する生徒が増えています。また、定時制高校に進学する生徒が増えています。離婚により、母子・父子家庭が増え、生活費を得る為に、昼も夜も働く人が増えています。親の長時間労働に伴い、子どもの食生活や就寝時間が乱れ、うつ、不登校、保健室通学が増えています。子どもと充分向き合えない結果、家庭での学習習慣が身に着かず、学力低下や荒れを引き起こす原因のひとつとなっているとも言われています。

盆踊りなどの地域の行事が減り、同じ街に住んでいても、顔見知り少なく、地域の大人と子どもの関わりが少なくなっているのではないのでしょうか。また、学校に対して親や地域からの苦情が増えたことや、生活指導の必要な子どもが増えたことにより、教職員は疲弊しています。教職員の精神疾患はこの10年で3～4倍に増えています。

このような状況を改善する為、文部科学省は、平成20年度から新たに、地域ぐるみで学校を支援する「学校支援地域本部事業」を実施しました。

この事業に取り組むには、地域と学校双方の実情をよく知っていて、その上で連絡調整が出来るコーディネーターが必要です。取組みの例として、学校の空き教室を地域に開放してもらい、学校支援地域本部が管理、各種団体、高校生や大学生、企業、同窓生や元教職員、文化・スポーツ団体などから会員を募り、夏の暑い教室を涼しくする為に、学校グリーンボランティアが中心となって、ゴーヤの日除けを作り、採れたゴーヤを給食の食材に利用しました。他にも、登下校の見守り、安全パトロール、ニュースポーツ大会、子ども・高齢者・障がい者の目線に立った公園整備、広報誌の発行、カーニバルの開催、学習指導など様々な取組みが地域ぐるみで行われています。

この取組みを進めていくうえで最も重要なのは、地域に精通しているコーディネーターの存在です。また、会員が主体的に取り組んでいけるよう誘導することも重要であります。教職員側と「地域に何を求めるか」を議論し、意思統一する必要があります。弱い立場の人が住み良い社会は、全ての人にとって住み良い社会である。すなわちそれが、「人権のまちづくり」なのです。

恒例となりました「壬生野まつり」は、今年で第5回目を迎え、日頃、皆さんが丹精を込めた作品で会場いっぱいに埋め尽くされました。

また、各イベントコーナーでは、コーヒー、梅ジュースなどのサービスやミニ・フラワーづくり、地元の新米によるお餅つき。健康コーナーでの体脂肪・血圧・脈拍測定の実施。健康チェック。人権パネル展示。さらに、新鮮な野菜・玉子・牛乳・お菓子などの販売も行われ大勢の方々で賑わいました。

当日は、秋晴れに恵まれ、300名を超える地域の皆様にお越しいただき、成功裡に終えることができました。厚くお礼申し上げますとともに、来年もさらに盛り上がるよう企画してまいります。

赤い羽根共同募金へのお礼

壬生野まつりの会場にて、健康福祉専門委員会が実施いたしました「赤い羽根」募金運動は、おかげさまで9,088円の募金をいただくことができました。ご協力をいただきました皆様方に厚くお礼申し上げます。



紙面の都合で出展いただきました作品の全てをご紹介できないことをお詫びいたします。